【笹岡委員】　　いきいきプロジェクトの取り組みによってどう変わったのかなと思ったら、平均で30分ぐらい退勤時間が早くなっていたと。これは多分もう少し、より長く滞在しないようにという工夫が、今後またこれによってされていくのだと思っております。

　１点だけ、この小学校の実際の先生方とお話ししてみて、やはり非常にアナログな部分というのがすごく多いと伺っております。タイムレコーダーが活用され始めましたけれども、さまざまアナログな部分が結構残っているなと。

例えばそれは保護者に対してもそうで、[**欠席届**](http://asp.db-search.com/musashino-c/dsweb.cgi/document%211%21guest01%21%2117367%211%211%211%2C-1%2C1%214841%21241890%211%2C-1%2C1%214841%21241890%214%2C3%2C2%214%215%21246648%21272%211?Template=DocPage&DocumentSelect=All#hit1)というのも、あの紙を朝８時15分までに出さなければいけない。電話でもファクスでもだめ。だから、兄弟がいる子はいいのですけれども、兄弟がいないと直で親が、病気の子どもを置いて行かなければいけなかったりする学校もあるわけです。ほかの学校はさまざまあるかと思うのですけれども、そういう学校もまだあるわけです。通学路でほかのお友達に渡してということなのかもしれないのですけれども。

　私も[**欠席届**](http://asp.db-search.com/musashino-c/dsweb.cgi/document%211%21guest01%21%2117367%211%211%211%2C-1%2C1%214841%21241890%211%2C-1%2C1%214841%21241890%214%2C3%2C2%214%215%21246648%21272%211?Template=DocPage&DocumentSelect=All#hit2)を出しに行くときに、そういった大変な状態のお母さんと遭遇することがたくさんあります。忙しくて、子どもも置いてきていてということはあるので、やはりこのアナログの部分というのを、ＩＣＴとかそういったものが活用できる部分は、今後も、今これで出ている部分以外もしなければいけないのではないかなと思っておりますし、先生方ももっとそれで効率的になる部分があるのかなと思っていますけれども、ちょっとざっくりとした質問ですが、そこら辺に対するお考えを伺いたいと思います。

【秋山指導課長】　　今、委員がおっしゃってくださったように、ＩＣＴの活用などで校務が軽減できるものがあれば、もちろんそういうものに取り組んでいくことは重要であると考えています。
　その欠席の御連絡についてＩＣＴを活用することが、保護者の方にとっては負担の軽減ということにはなるのかもしれませんけれども、教員の朝の慌ただしい時間の中でそれが軽減につながるかということについては、少しまた検討してみる必要もあるのかなと考えております。
　以上です。

【福島教育部長】　　ちょっと話がずれるかもしれないのですが、先生方の忙しい要因が、特に中学校は部活動であったり、小学校は授業時数であったりと考えているのですけれども、今の例えば[**欠席届**](http://asp.db-search.com/musashino-c/dsweb.cgi/document%211%21guest01%21%2117367%211%211%211%2C-1%2C1%214841%21241890%211%2C-1%2C1%214841%21241890%214%2C3%2C2%214%215%21246648%21272%211?Template=DocPage&DocumentSelect=All#hit3)の話なんかもそうなのですが、多分学校側では、なかなか電話のやりとりをしている時間がないとか、そういう学校側の都合でやっているところがあるのかなと考えております。

　ですので、その辺はどういう利用をしたら、先生方にも、それから保護者にも、一番手間がかかったり、病気のお子さんがいるときに学校に出向くということがないような、とれる方法は今後考えていきたいと思いますし、それから今回、この取り組み内容にあります、一番保護者の方に影響というか、関連があるものでは、電話応答メッセージ対応の導入というのが（２）の4)にございまして、これについては、夜間、残っている先生方が多いわけなのですが、そこに保護者の方とかから多々連絡が入る。

　それが緊急性が高いものならもちろん構わないのですけれども、緊急性が低いものが実際には多いのかなと考えておりまして、周辺自治体を含めて、夜間については自動音声メッセージでの対応を導入し、その間、翌日の指導のための準備とかに充てていただけるという形をとらせていただきたいと考えておりまして、ただその時間は、学校に電話が直接はつながらないということになりますので、保護者の方にも影響がございますので、きょういく武蔵野や通知等を利用して、保護者の方には御理解をいただきながら進めていきたいと考えております。

【笹岡委員】　　今のをちょっと１点だけ伺ってもいいですか。電話応答メッセージ対応というのは、緊急性が低いものはもちろん応答メッセージでもいいと思っているのですけれども、それは電話機が判断するのか、どういうふうになるのか。

中には、例えば学校から帰ってきたらけがをしていて、病院に行ってみたらギプスになった──これは最近のうちなのですけど──ということもあって、それは御連絡をしたいなと思ってしているのです。

あとは水ぼうそうがすごくはやっている時期に、うちも水ぼうそうになっていますとか、そういうのを保健室に御連絡しなければいけない。そういうときというのはどうなるのですか。ちょっとイメージが湧かないのでお願いします。

【秋山指導課長】　　応答メッセージについては、よく企業等でも流れているので、大体イメージいただけるかなと思います。一定の時間のところでメッセージ対応に切りかえさせていただくということです。今、例で挙げていただいた、お子さんがけがをして帰ったとか、そういうことについては、御連絡いただく前に、当然学校から保護者の方に御連絡をしてしかるべきだと思っていますので、これまで以上に、そういうところの連絡は学校のほうから徹底する、ということを学校へ徹底していきたいと、まず前提としては思っています。

　そしてその上で、お子さんの命にかかわるような緊急の場合につきましては、市役所の代表電話のほうにかけていただこうと考えております。代表電話は宿直の方が出られますので、そこから指導課にまだ人が残っている場合は指導課へ、もしもっと夜間で、私ももう退勤した後であれば、私の携帯電話に連絡が来るようにしたいと思っています。そこから学校のほうへ連絡をしていくということで、そういう体制は組んでまいりたいと考えております。
　以上です。